

ナンバリングコード BITHA-dceG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000001) 主題A「人生とキャリア」 Life and Career 人生選択の社会学 Sociology for Choice of Life	科目区分 主題科目 水準 学士:入門科目 分野 主題A 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2021年度 3Q月5 提供部局:大教センター DPコード:dce 単位数 1	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 時岡 晴美	関連授業科目 社会学 履修推奨科目 特になし。		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習(準備学習10時間+事後学習20時間)			
<b>授業の概要</b> 21世紀社会においては、人生の種々の場面や日々の日常生活において選択を迫られることが多く、生活者にとっての選択肢も多様に用意されています。真に自分らしい生き方を実現するために、よりよい選択をするための基礎的知識として現代社会を読み解き、生活者としてライフコースを構想する力を培うものです。			
<b>授業の目的</b> 社会の実態と関連付けながら、ワークショップによる検討を交えて実態的に考察するとともに、自己のキャリアについてビジョンを描いていきます。 学習した成果として、21世紀社会の現状を理解し、地域に特有の課題と解決策を自己と関連づけて探求することができる。また、社会において自己が果たすべき役割や、市民としての責任ある行動について理解を深め、実践することができる。			
<b>到達目標</b>			
①大学生として高等教育の意義を理解し、自己のキャリア選択について実態的にビジョンが持てる。共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応。 ②21世紀社会における課題とその解決策について探求し、地域特有の課題について理解を深め、社会において自己が果たすべき役割について理解し実践できる。共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」「地域に関する関心と理解力」に対応。 ③市民としての責任ある行動を実践することができる。共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応。			
<b>成績評価の方法と基準</b> テーマ毎の小レポートで50%、最終回に課す課題レポートで50%。欠席は減点。 ワークショップにあっては特に意欲を持って積極的に取り組めた学生には相応に加点する。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
この授業は全回対面授業を行います。なお、状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。 授業では、3つのテーマについて、講義・グループ討議・発表とまとめ、として進めます。 生活主体である学生の課題として、また、それを取り巻く現代社会の特徴などといった両者からのアプローチで取り上げていくものです。  1. オリエンテーション:現代社会におけるライフコース 2. 第1ブロック:これまでの自分史からみた「人生の選択」 3. 同:グループ分け、アイスブレイクとグループ討議 4. 第2ブロック:生活に必要とされる倫理的課題 5. 同:グループ討議と課題整理 6. 第3ブロック:ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて 7. 同:グループ討議と課題整理 8. まとめ:これからの「人生の選択」、私の人生の昨日・今日・明日を考える  3ブロックそれぞれにグループ討議を課しているため、講義をふまえてテーマ内容について検討・考察するという自学自習が必要になります。テーマごとにワークシートに沿って準備学習等を行うことで活発なグループ討議が可能になり、それによって学ぶ内容が深められたり実感を持てるなど充実した成果が得られます。逆に、準備不足でグループ討議に参加できないなどのケースがあれば、所属するグループ全員の学習効果が下がることもあるため、しっかり準備することが求められます。  [自学自習のためのアドバイス]各ブロックでは、テーマに沿って社会学の理論を解説したり現代社会を解説するという授業構成になっているので、講義で紹介されたキーワードについて新たな知見を得たり、関連する内容について検討するなど、意見を構成するためのエビデンスを収集することが必要となります。			
<b>教科書・参考書等</b> 特に指定しない。 必要な回に提示する。			
<b>オフィスアワー</b> 金曜日5時限目から19時まで 研究室の場所は、幸町北キャンパス8号館5階			

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

講義を受講し、グループ討議に参加、これらをふまえてレポートを作成、という形で進めていくので、グループ討議に参加してしっかり議論することが求められます。

さらに、これらをふまえて自己の問題としてレポートを作成することになるので、各テーマに主体的に取り組んでいくことが必要です。

ナンバリングコード BITHA-dabG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000002) 主題A「人生とキャリア」 Life and Career 想像力の教室 Reflections on Imagination	科目区分 主題科目 水準 学士:入門科目 分野 主題A 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2021年度 1Q金1 提供部局:大教センター DPコード:dab 単位数 1	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 佐藤 慶太	関連授業科目 哲学A, 哲学B, 倫理学C 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習(事前学習15時間相当 + 事後学習15時間相当)			
<b>授業の概要</b> 過去や未来の世界、他者の痛み、ユートピア、ファンタジー…。人間は想像力によって様々なものを思い描きます。人間はこの能力を通じて、社会を改善したり、他者と豊かな人間関係を作り上げたりすることができます。一方で想像力の過剰/暴走が、自分や他者を傷つけることもありえます。このような二面性をもつ「想像力」にどのように向き合っていけばよいのでしょうか。この授業では「想像力」にそなわる可能性を哲学的に考察します。			
<b>授業の目的</b> 人間として生きるうえで「想像力」が果たす役割を哲学的に考察することを通じて、そこで生じる諸問題について、自分の主張を論証できるようになる。			
<b>到達目標</b>			
1. 社会において自分が果たすべき役割や、市民としての責任ある行動について理解を深め、そこから自己や社会の未来について考えることができる。 (共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応) 2. 「想像力」について、どのような哲学的な論点があるか、理解することができる。 (共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 3. 「想像力」に関する哲学的な問題について、自分の意見を述べ、根拠づけることができる。 (共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業での課題への取組(40%:到達目標1、2に対応)と、レポート(60%:到達目標3に対応)によって評価する。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
【授業計画】 第1週 オリエンテーション - 「想像力」を養うことの意義 第2週 他者と想像力①—メディアと想像力 第3週 他者と想像力②—フィクションと想像力 第4週 他者と想像力③—フィクションと想像力 第5週 社会と想像力①—「市民としての責任感と倫理観」と想像力 第6週 社会と想像力②— 社会のルールと文化的多様性 第7週 未来を想像することの意義 第8週 まとめ			
【授業及び学習の方法】 授業は、講義とワークの時間によって構成されます。講義の時間では、担当教員が想像力についての哲学者の考えや関連する現代の問題について解説します。ワークの時間では、教員が提示した問題について、グループでのディスカッションやミニレポートに取り組んでもらいます。  この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
【自学自習のためのアドバイス】 概ね、次回で扱うテーマについての下調べと、グループディスカッションのテーマについてあらかじめ考えてくることが求められます。授業中に指示、アドバイスをしますので、それに従ってください。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書:授業中にプリントを配布します。参考書:授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー 木曜日13:00~15:00 佐藤慶太研究室(教育学部5号館5F)			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> ・グループワークがありますので、やむを得ない場合を除いて遅刻・欠席をしないようにしてください。			

ナンバリングコード BITHA-dbxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000003) 主題A「人生とキャリア」 Life and Career キャンパスライフ入門 Campus Life for Beginners	科目区分 主題科目 水準 学士:入門科目 分野 主題A 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2021年度 1Q木1 提供部局:大教センター DPコード:dbx 単位数 1	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 西本 佳代	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習 (準備学習15時間 + 事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> 一年生の皆さんは、どのようなキャンパスライフを送りたいと思っていますか。この授業では、大学の歴史、一市民としての社会とのかかわり方、就職活動に必要なもの等のキャンパスライフを送るにあたっての基礎的な知識を学びながら、社会で働くようになる4年後(あるいは6年後)に向けて、どのようなキャンパスライフを送ればよいのか考えます。			
<b>授業の目的</b> 大学の歴史、就職活動に関する情報など、大学一年生が知っておくべき基礎的な知識を身につけると共に、社会において自己が果たすべき役割や、市民としての責任ある行動について理解を深めることができる。			
<b>到達目標</b>			
①大学の歴史、就職活動に関する情報など、大学一年生が知っておくべき基礎的な知識を身につけることができる(共通教育スタンダード「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 ②社会において自己が果たすべき役割や、市民としての責任ある行動について理解を深めることができる(共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応)。 ③他者とのコミュニケーションをはかりながら、自分の意見を表現することができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業態度30%、プレゼンテーション30%、レポート40%			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1週 オリエンテーション <遠隔> 第2週 市民としての責任感と倫理観① 一身近な犯罪― <対面> 第3週 市民としての責任感と倫理観② 一人間関係― <対面> 第4週 大学の歴史 <遠隔> 第5週 大学で何を学ぶのか <対面・ディベート> 第6週 就職活動に必要なもの <遠隔> 第7週 4年後(あるいは6年後)に向けて <対面・プレゼンテーション> 第8週 まとめ(45分授業) <遠隔>			
<b>【授業及び学習の方法】</b> この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 第1~6週 プレゼンテーション「4年後(あるいは6年後)に向けて」のために準備する。 第5週 ディベート「大学で何を学ぶのか」のために準備する。 第7、8週 プレゼンテーションをふまえてレポートを作成する。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書・参考書等は授業中に適宜紹介します。			
<b>オフィスアワー</b> 水曜日第2講時(10:30~12:00)。5号館4階西本研究室。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> ・15分以上の遅刻は欠席として扱います。 ・第7週のプレゼンテーション未報告者・レポート課題未提出者は評価の対象としません(公欠等の特別な事情を除く)。 ・対面授業の場合、グループワークを行うため、受講者数は100名程度とします。			

ナンバリングコード BITHA-decG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000004) 主題A「人生とキャリア」 Life and Career 地方で生きるということを考える Discuss Living in the Countryside	科目区分 主題科目 水準 学士:入門科目 分野 主題A 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2021年度 1Q金1 提供部局:大教センター DPコード:dec 単位数 1	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 大村 隆史	関連授業科目 なし 履修推奨科目 なし		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習(準備学習15時間、事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> 本授業では「私はどこで、どのように生きていくか」という問いを軸とした講義とグループワークを行います。従来の東京一極集中の時代から、地方創生の時代へと移りゆく昨今の状況を踏まえて、受講者自身が主体的に考え、自分たちの場所を自分たちで作っていくこと、ひいては社会や公共の担い手としての自覚を獲得していくことにつながる学びの場を用意します。 具体的には、各回のテーマに関する講義を行ったあと、地方で暮らし、はたらく人びとに関するいくつかの事例について、グループでディスカッションをさせ、「地方」「暮らし」「仕事」といった人生とキャリアに関わる概念をめぐるそれぞれの率直なイメージを共有させ、自分の価値観を含む様々な価値観との出会いの場を創出します。			
<b>授業の目的</b> 従来の東京一極集中の時代から、地方創生の時代へと移りゆくなかで、「地方で生きること」をテーマとした学習は従来の価値観を相対化し、新たな選択肢を自分事として捉えなおす重要な契機といえる。本授業を通じて、市民としての責任ある行動について理解を深め、そこから自己や社会の未来について考えることができる。			
<b>到達目標</b>			
1. 「地方で生きること」の特徴を的確に捉えて議論に参加することができる。(共通教育スタンダード「地域に関する関心と理解力」に対応) 2. 自分自身の人生とキャリアに照らしながら、主体的に「地方で生きること」の可能性と課題を論じることができる(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。 3. 市民としての責任感や倫理観について理解を深め、「地方で生きること」と関連づけて論じることができる(共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応)。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 毎回の授業の参加姿勢や提出レポートを中心に平常の評価を行う。さらに、期末に課すレポートの評価とあわせて、総合的に評価を行う。(各回レポート30%、グループワーク30%、最終レポート40%)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
●この科目は一部の授業回を除いて、対面授業を基本とします。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。			
<b>【授業及び学習の方法】</b> Moodleに本授業のコースを作成します。 2021年4月5日(月) 8:50以降に登録を済ませ、コース内の指示に従って学習を進めてください。 授業は第1~3回にテーマの論点と関わるいくつかの視点を提示し、事例検討に向けた学習をする。第4~7回に事例検討を中心としたグループワークを行い、討議の成果をグループ間で共有する。ここでは、3~4名程度で1組のグループになり、報告担当者が中心となって討議を進める。各事例を読み解く際の視点や論点、グループワークの進め方等については、教員から手引きが示されるため、討論の進め方がわからない者でも問題なく参加することができるよう用意されている。第8回に振り返りとまとめをする。 なお、毎授業の最後にはミニレポートを書く。各回のテーマに関する資料はその都度提示する。			
<b>【授業計画】</b> <b>第1回 ガイダンス、授業テーマの共有(遠隔)</b> 授業の目的・内容・方法についてシラバスを用いて確認する。 授業テーマ「地方で生きるということ」について簡単なワークを行い、テーマに対する初期イメージの確認をする。			
<b>第2回 日本の都市化と東京一極集中(遠隔)</b> 日本の教育機関の変遷を軸に据え、都市化と過疎化が激化していく経緯を概観する。 キーワードとして「立身出世」、「金の卵」、「青年団」、「自己教育運動」などがある。			
<b>第3回 コミュニティ政策の転換と地方創生(遠隔)</b> 地域住民同士の連帯とネットワークが政策的に重視されはじめた時代の特徴を理解する。 キーワードとして、「地域福祉」、「ボランティア」、「自己実現」などがある。			

第4回 事例検討GW 「いま、地方で生きるということ」 1 (対面)  
グループワークを通じて、市民としての責任感と倫理観に関する理解を深める。

第5回 事例検討GW 「いま、地方で生きるということ」 2 (対面)  
グループワークを通じて、市民としての責任感と倫理観に関する理解を深める。

第6回 事例検討GW 「いま、地方で生きるということ」 3 (対面)  
グループワークを通じて、市民としての責任感と倫理観に関する理解を深める。

第7回 事例検討GW 「いま、地方で生きるということ」 4 (対面)  
グループワークを通じて、市民としての責任感と倫理観に関する理解を深める。

第8回 まとめ、振り返り (対面)

**【自学自習のためのアドバイス】**

講義では、就学や進学、社会移動という進路選択に関する事項と、コミュニティ、ケア、地方財政といった住民自治に関する事項を取り扱う。

講義の際に示された参考文献などの情報源から自学自習を進めることが望ましい。グループワークについては、授業時間外にグループで取り組む作業が課された際に、グループメンバー同士でのコミュニケーションの機会をしっかりと取って、情報共有と意見交換を行うことが望ましい。

**教科書・参考書等**

教科書は定めていない。参考書としては以下の通り。

- 木村元『学校の戦後史』岩波新書，2015年（本体780円＋税）。中央図書館に所蔵有。
  - 橘木俊詔『日本人と経済 労働・生活の視点から』東洋経済新報社，2015年（本体1,800円＋税）
  - 西村佳哲『いま、地方で生きるということ』ミシマ社，2011年（本体1,700円＋税）。同著者、タイトルの文庫版（筑摩書房，2019年，本体860円＋税）もある。
- ※授業の際には該当箇所のコピーを配布する予定のため、購入は必須ではない。関心がある場合は購入するなどして一読することをお勧めする。

**オフィスアワー** 研究交流棟 6階地域連携・生涯学習センター大村研究室  
金曜日10:30から13:00までをオフィスアワーとする。

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

グループワークを予定しているため、大幅な遅刻はグループメンバーへ迷惑をかけることとなります。どうしても時間通りの参加が適わないことが事前にわかっている場合は、必ず教員へ連絡をしてください。

ナンバリングコード BITHA-daxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000005) 主題A「人生とキャリア」 Life and Career 多様な人々と「仕事」をしていくための基礎を学ぶ To learn the basics of working with a variety of people	科目区分 主題科目	時間割 2021年度 1Q火1	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 主題A	提供部局:大教センター DPコード:dax	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 葛城 浩一	関連授業科目 なし		
	履修推奨科目 なし		
学習時間 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習(準備学習20時間 + 事後学習10時間)			
<b>授業の概要</b> この授業でいう「仕事」とは、職業としての仕事のことで必ずしもなく、「何かを作り出す、または、成し遂げるための行動」のことを意味しています。年齢や立場、価値観等の異なる多様な人々と「仕事」をしていくための基礎を学ぶことは、有意義な学生生活を送る上でも非常に重要です。この授業では、「社会人基礎力」(経済産業省)の「チームで働く力」を手がかりに、その基礎についてグループワークを交えながら体験的に学びます。			
<b>授業の目的</b> 多様な人々と「仕事」をしていくために、「チームで働く力」の各能力要素についての基礎的な理解を得るとともに、それらと今後の学生生活とを関連づけることができるようになる。			
<b>到達目標</b>			
1.「チームで働く力」の各能力要素について、重要だと感じたこと、気づいたこと等を他者にわかるように表現することができる(共通教育スタンダードの「課題解決のための汎用的スキル」に対応、また特に「規律性」は、共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に強く対応)。 2.「チームで働く力」の各能力要素についての学びをふまえて、今後の学生生活の過ごし方について具体的に表現することができる(共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応)。			
<b>成績評価の方法と基準</b> レポート 60%(到達目標1に対応) 最終レポート 40%(到達目標2に対応)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
【授業の方法】 「チームで働く力」の各能力要素について、グループワークを交えながら体験的に学んでいきます。 なお、この科目は全回対面授業を行います。状況によっては一部の授業回を遠隔へ変更する可能性があります。			
【授業計画】 第1回 「仕事」とは何か? 第2回 「発信力」を学ぶ 第3回 「傾聴力」を学ぶ 第4回 「規律性」(「市民としての責任感と倫理観」)を学ぶ 第5回 「ストレスコントロール力」を学ぶ 第6回 「柔軟性」を学ぶ 第7回 「状況把握力」を学ぶ 第8回 まとめ:今後の学生生活をどう過ごしたらよいか?			
【自学自習に関するアドバイス】 第2～7回 「チームで働く力」の各能力要素について、重要だと感じたこと、気づいたこと等をレポートにまとめる(A4(40字×36行)で1枚)。なお、このレポートを用いて、次の回の授業の冒頭で、前の回の授業のふりかえりを行うので、忘れずに持参すること。 第8回 これまでの授業の内容をふまえて、今後の学生生活をどう過ごしたらよいと思うか、最終レポートにまとめる。			
<b>教科書・参考書等</b> なし			
<b>オフィスアワー</b> 授業日12時半から13時半まで 研究室は教育学部キャンパス4号館3階			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> グループワーク中心の授業形態のため、受講者数は100名程度とする。 事前連絡なしでの欠席・遅刻があった場合には、1回につき5点の減点とする。			

<p>ナンバリングコード BITHA-dcbG-10-Lg1  <b>授業科目名</b> (時間割コード:000006)</p> <p>主題A「人生とキャリア」  Life and Career</p> <p>私たち(主権者)と公共・代表  We as the sovereign and public life, representatives</p>	<p><b>科目区分</b>  <b>主題科目</b></p> <p><b>水準</b> 学士:入門科目  <b>分野</b> 主題A</p> <p><b>授業形態</b> 講義  グループワーク</p>	<p><b>時間割</b> 2021年度  1Q火2</p> <p><b>提供部局</b>: 大教センター  <b>DPコード</b>: dcb</p> <p><b>単位数</b> 1</p>	<p><b>対象年次</b> 1~</p> <p><b>対象学生</b> 全学生  <b>特定プログラムとの対応</b>  対応なし</p>
<p><b>担当教員名</b>  三野 靖, 堤 英敬</p>	<p><b>関連授業科目</b>  <b>履修推奨科目</b></p>		
<p><b>学習時間</b> 授業90分×7回 + 授業45分×1回 + 自学自習 (準備学習20時間 + 事後学習10時間)</p>			
<p><b>授業の概要</b></p> <p>この授業の前半では、今日の公共的課題(新型コロナウイルス感染症問題と若者の引きこもり問題)についてグループで議論し、それを解決するための政策立案を行います。世の中に存在する社会問題をめぐっては様々な価値観や考え方がありますが、そうした多様性を理解し、お互いの違いを認めた上で、多面的な観点から思考するとともに、合意形成の方向性を探っていきます。後半は、私たちの意思が代表者の選出を介して、政策の決定にどのように繋がっていくのかを、模擬選挙を通じて学びます。</p>			
<p><b>授業の目的</b></p> <p>国や地方自治体の活動や、地域や社会における様々な課題(「公共的課題」)が「私たち(主権者)」の生活とどう関わっているかを考え、議論するなかで、政策を決定し実施する国や自治体の代表者(「代表」)を選ぶことの意義、ひいては主権者としての意識の醸成とその責任について考えることが、この授業の目的です。</p>			
<p style="text-align: center;"><b>到達目標</b></p>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公共的課題が自らの生活とどう関わっているか、関わってくるかを理解できる。(共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応)</li> <li>2. 公共的課題について多様な価値観や考え方を理解し、多面的に思考することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)</li> <li>3. 公共的課題について、他者と協働的に議論することができる。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)</li> <li>4. 公共的課題を解決するための政治のあり方、代表の意義、主権者としての責任について思考することができる。(共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」、「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)</li> </ol>			
<p><b>成績評価の方法と基準</b></p>			
<p>授業への参加の度合(40%)、グループ報告の内容と政策討論会での対応(20%)、公共的課題に関するレポート(35%)、模擬選挙に関するレポート(5%)</p>			
<p style="text-align: center;"><b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b></p>			
<p><b>【授業及び学習の方法】</b></p> <p>基本的に、6人程度のグループによるグループ・ワークを中心として授業を進めます。前半(第2週~第6週)は、新型コロナウイルス感染症問題もしくは若者の引きこもりの問題をテーマとして、グループでの議論を通じた政策立案を行います。第6週には各グループの報告と政策討論会を行う予定です。また、後半は模擬選挙を実施します。第7週には、実際の政党に投票する形式での模擬選挙を行い、それを受けて第8週に投票や選挙についての意見交換を行います。</p> <p>なお、この授業は原則として対面授業を行います。ただし、状況によっては、一部または全部の授業を遠隔で実施することもあります。</p> <p><b>【授業計画】</b></p> <p>第1週 ガイダンス、国や地方自治体の政治制度・選挙制度  第2週 現代の公共的課題:新型コロナウイルス感染症問題・若者の引きこもり問題  第3週 グループ討議(1):新型コロナウイルス感染症問題・若者の引きこもり問題に関する論点整理  第4週 グループ討議(2):新型コロナウイルス感染症問題・若者の引きこもり問題に関する現状把握  第5週 グループ討議(3):新型コロナウイルス感染症問題・若者の引きこもり問題に対する政策立案  第6週 グループ報告と政策討論会  第7週 国政選挙を題材とした模擬投票  第8週 模擬投票の振り返り(45分授業)</p> <p><b>【自学自習の指示】</b></p> <p>第3週 グループ内で分担して、政策課題の論点を用意する(3時間)。  第4週 グループ内で分担して、課題の現状が把握できる資料を用意する(3時間)。  第5週 グループ内で分担して、政策課題の解決に資する政策を考える(3時間)。  第6週 グループで報告資料の作成など報告・討論の準備を行う(6時間)。第8週までに、政策立案に関するレポートを作成する(8時間)  第7週 配付資料などを参考にしながら、模擬選挙での投票政党を考える(3時間)。  第8週 模擬選挙を振り返り、模擬選挙での投票についてレポートを作成する(4時間)。</p>			

**教科書・参考書等**

教科書は使用しません。

**【参考書】**

総務省・文部科学省『私たちが拓く日本の未来：有権者として求められる力を身に付けるために』2015年  
([http://www.soumu.go.jp/main\\_content/000492205.pdf](http://www.soumu.go.jp/main_content/000492205.pdf))

**オフィスアワー** 三野：火曜13:00～14:00（研究室:幸町南6号館5F）

堤：月曜12:30～13:30（研究室:幸町南6号館5F）

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

グループワーク中心の授業形態のため、受講者数は100名程度とします。

ナンバリングコード BITHA-dbcG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000007)  主題A「人生とキャリア」 Life and Career  金融とキャリア ～銀行、証券は役に立っているか?～ Is financial business good for the world?	科目区分 主題科目	時間割 2021年度 1Q木5	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 主題A	提供部局:大教センター DPコード:dbc	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 三好 秀和	関連授業科目 なし 履修推奨科目 なし		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回 自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> 仕事の内容をビジネスモデルの観点から説明します。そして、その内容が社会や個人にとってどのように役立っているのかを考えます。この学びは金融機関への就職を目指すだけでなく、ユーザーとして利用する人にとっても役立ちます。			
<b>授業の目的</b> 金融がサポートしている企業や個人へのかかわりを学びます。普段外側からしか見ていない銀行や証券会社がどのような意味があってその業務をおこなっているかを理解すれば、環境が目まぐるしく変化する中で、将来どのように対処すべきかが見えてきます。その中で単に知識を得るだけでなく倫理観・社会的責任の視点から考察します。人生の中でどのようにキャリアを積むべきかの一つの指針となることでしょう。21世紀社会の諸課題に対する探求能力を培う1つのケースとして、ビジネスモデルの観点から銀行・証券のビジネスを学び、その意義を再確認していきます。			
<b>到達目標</b>			
1. 金融(銀行・証券)の不祥事を学ぶことで市民としての責任感と倫理観を身につける。(共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応) 2. 金融(銀行・証券)の知識を得ることができる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 3. 金融(銀行・証券)を理解することを通じて21世紀社会の諸課題に対する探求能力を身につける。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> 期末テスト60%、レポート40%(授業内容のまとめ的なもの2回)、有益な発言意見には別途加点をおこなう。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1回 ガイダンス ビジネスモデルから金融業を考える、リテールとホールセール 第2回 銀行業1 順さや、逆さや、預金保険機構、銀行破綻、事業性評価 第3回 銀行業2 手数料ビジネス、資金送金とビットコイン、富裕層ビジネス 第4回 銀行業3 成長サイクルとライフプラン、財務諸表とライフプラン 第5回 証券業1 ブローカレッジ、リスク許容度、株価と市場 第6回 証券業2 アンダーライティング、IR、社債、IPO 第7回 証券業3 ディーリング、プロップディーラー、ポジション管理 第8回 テストとまとめ テストを実施したあとその解説とまとめをおこなう			
<b>【授業および学習の方法】</b> 授業は講義中心に進めますが、受講生の理解を助けるため適宜質問し回答してもらいます。このキャッチボールは柔軟な頭脳と瞬発力を高めます。知識一辺倒ではなく考える授業にし、問題解決能力を高めます。  この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 学習の方法としてテキストを事前に読み全体像をつかんでおくこと(1時間程度)、授業で不明な点を解決すること、そして、復習としてまとめを作ること(1時間程度)が必要です。さらに、経済新聞や経済ドラマや企業経営を紹介した番組を見て金融機関とのかかわりが話題となっていないかに関心をもって観てください(1時間程度)。社会の仕組みの理解が深まります。特に倫理観の欠如が社会にどのように影響するかを想像することも大切となります。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書:三好秀和著2017『銀行・証券・保険業界のビジネスモデルで学ぶ 金融キャリアの強教科書』経済法令研究会 ISBN978-4-7668-3346-1 1300円+税			

参考書:三好秀和、佐々木一雄著2017『3年で退職しないための就活読本』同友館 ISBN978-4-496-05257-6  
1600円+税

**オフィスアワー** 木曜日4時限目、研究室は南4号館。

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

テキストを読んでもわからないことがあります。著作者である私から直接学ぶのが一番です。授業に100%出席してください。

**教員の実務経験との関連**

ビジネスマンとして金融機関に従事していました。資産運用会社でのトレーダー等の経験もあります。現在、香川大学のサークル、金融証券研究会の顧問をしています。

<b>ナンバリングコード</b> BITHA-dbcG-10-Lx1 <b>授業科目名</b> (時間割コード:000008)  主題A「人生とキャリア」 Life and Career  金融とキャリア ～生命保険、損害保険、信託銀行は役に立っているか?～ Is financial business good for the world?	<b>科目区分</b> 主題科目	<b>時間割</b> 2021年度 2Q木5	<b>対象年次</b> 1～
	<b>水準</b> 学士:入門科目 <b>分野</b> 主題A	<b>提供部局</b> :大教センター <b>DPコード</b> :dbc	<b>対象学生</b> 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	<b>授業形態</b> 講義	<b>単位数</b> 1	
<b>担当教員名</b> 三好 秀和	<b>関連授業科目</b> なし <b>履修推奨科目</b> なし		
<b>学習時間</b> 授業90分×7回+授業45分×1回 + 自学自習(準備学習 1.5時間 + 事後学習 1.5時間)			
<b>授業の概要</b> 仕事の内容をビジネスモデルの観点から説明します。そして、その内容が社会や個人にとってどのように役立っているのかを考えます。この学びは金融機関への就職を目指すだけでなく、ユーザーとして利用する人にとっても役立ちます。			
<b>授業の目的</b> 金融がサポートしている企業や個人へのかかわりを学びます。普段外側からしか見ていない保険会社や信託銀行がどのような意味があってその業務をおこなっているかを理解すれば、環境が目まぐるしく変化する中で、将来どのように対処すべきかが見えてきます。その中で単に知識を得るだけでなく倫理観・社会的責任の視点から考察します。人生の中でどのようにキャリアを積むべきかの一つの指針となることでしょう。21世紀社会の諸課題に対する探求能力を培う1つのケースとして、ビジネスモデルの観点から信託保険のビジネスを学び、その意義を再確認していきます。			
<b>到達目標</b>			
1. 金融(保険・信託)の不祥事を学ぶことで市民としての責任感と倫理観を身につけることができる。(共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」に対応) 2. 金融(保険・信託)の知識を得ることができる。(共通教育スタンダードの「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 3. 金融(保険・信託)を理解することを通じて21世紀社会の諸課題に対する探求能力を身につける。(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> 期末テスト60%、レポート(まとめのようにももの2回)40%、有益な発言意見には加点をおこなう。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1回 ガイダンス ビジネスモデルから金融業を考える、リテールとホールセール 第2回 信託銀行業1 伝統的な銀行業務、預金保険機構、銀行破綻、事業性評価 第3回 信託銀行業2 信託銀行固有業務 信託とは、不動産ビジネス、資産運用ビジネス 第4回 保険総論 保険とは、保険事由、保険種類、大数の法則、3利源、 第5回 保険1 民間保険と社会保険、医療保険、 第6回 保険2 その生成と発展過程(損害保険業)、リスク管理機能 第7回 保険3 いわゆるバブル経済崩壊後から現在まで(生命保険業) 第8回 テストとまとめ テストを実施したあとその解説とまとめをおこなう			
<b>【授業および学習の方法】</b> 授業は講義中心に進めますが、受講生の理解を助けるため適宜質問し回答してもらいます。このキャッチボールは柔軟な頭脳と瞬発力を高めます。知識一辺倒ではなく考える授業にし、問題解決能力を高めます。  この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 学習の方法としてテキストを事前に読み全体像をつかんでおくこと(1時間程度)、授業で不明な点を解決すること、そして、復習としてまとめを作ること(1時間程度)が必要です。さらに、経済新聞や経済ドラマや企業経営を紹介した番組を見て金融機関とのかかわりが話題となっていないかに関心をもって観てください(1時間程度)。社会の仕組みの理解が深まります。特に倫理観の欠如が社会にどのように影響するかを想像することも大切となります。			
<b>教科書・参考書等</b> 教科書:三好秀和著2017『銀行・証券・保険業界のビジネスモデルで学ぶ 金融キャリアの強教科書』経済法令研究会 ISBN978-4-7668-3346-1 1300円+税 参考書:三好秀和、佐々木一雄著2017『3年で退職しないための就活読本』同友館 ISBN978-4-496-05257-6 1600円+税			

**オフィスアワー** 木曜日4時限目、研究室は南4号館。

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

テキストを読んでもわからないことがあります。著作者である私から直接学ぶのが一番です。授業に100%出席してください。

**教員の実務経験との関連**

ビジネスマンとして金融機関に従事していました。資産運用会社でのトレーダーの経験もあります。現在、香川大学のサークル、金融証券研究会の顧問をしています。

ナンバリングコード B1THA-dbxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000009)  主題A「人生とキャリア」 Life and Career  ワークライフバランスとキャリアデザイン Career design and work-life barance	科目区分 主題科目	時間割 2021年度 1Q火1	対象年次 1～
	水準 学士:入門科目 分野 主題A	提供部局:大教センター DPコード:dbx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 小方 朋子, 片岡 元子	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回+(まとめ45分+試験45分)×1回+自学自習(準備学習20時間+事後学習10時間)			
<b>授業の概要</b> あなたはどんな大人になってどんな働き方を選びますか?ワークライフバランスの提唱や働き方改革など、日本人のライフスタイルが変化してきている今、自分がどのように育てられてきたのかを振り返りながら、社会人になったときに、生活と仕事と家庭のバランスをどうとるのか、人を育てるとはどういうことなのかを考えていきます。			
<b>授業の目的</b> 育てられた世代から、育てる世代へととなっていくという自覚を持ちながら、現代社会の課題に向き合えることと、将来の働く自分を想像し、社会人としての責任感と倫理観を自覚できるようになること。			
<b>到達目標</b>			
1. 現代の働き方についての課題を理解することができる。(共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」及び「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応) 2. 自分はどのように育てられてきたのか、自分の育ちを客観視できる。 3. 自分の将来のライフワークバランスのビジョンを持つことができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業への取り組み(ミニテスト、グループワークの活動状況、発表など) 50% (到達目標1、2に対応) 試験 50% (到達目標3に対応)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業計画】</b> 第1回 社会を構成する大人になるということ 第2回 私の育てられ方(1) 第3回 私の育てられ方(2) 第4回 現代の子育て事情 第5回 仕事と家庭 第6回 働き方改革について 第7回 現代の労働に関する課題と自分の働き方 第8回 まとめと試験			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 第2回、第3回は自分の名前の由来やどのように育てられたかなど思い出などを題材にするので、両親などからきいておくこと。 第5回～第7回は現代の働き方(ジェンダー問題、家事育児、働き方改革など)を扱うので、現代社会で課題とされているものの情報を集めておくこと。 第8回の試験では自分の将来についても記述することになるので、疑問等やもっと知りたいことは自分で調べておくこと。  この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
<b>教科書・参考書等</b> 資料はその都度配布します。			
オフィスアワー 小方 水曜1限 8号館2階 片岡 月曜4限 8号館5階			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> この授業はグループワーク中心のため受講生は100名程度とします。			

ナンバリングコード BITHA-dxxG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000011) 主題A「人生とキャリア」 Life and Career 生活と法 ～理系・文系学生のための リーガル・ベーシック Life and Law	科目区分 主題科目	時間割 2021年度 1Q火2	対象年次 1～
	水準 学士：入門科目 分野 主題A	提供部局：大教センター DPコード：dxx	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 和食 俊朗	関連授業科目		
	履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習(事後学習30時間)			
<b>授業の概要</b> 皆さんは何気なく日々の学生生活を送っていると思うが、法は日常の暮らしや人生に深く関わっている。自分自身や近親者が思いがけないトラブルに見舞われたり、近親者が死亡したりすると、はじめて法の重要性や法が働いていることに気づく。本講義では、研究者教員のほか法律実務家や元裁判官の教員が、実務的な経験を踏まえつつ、オムニバス形式で、生活の中の基本的な法律関係や生じやすいトラブルを取り上げて、法の役割や法的な考え方を説明する。			
<b>授業の目的</b> 学生生活その他さまざまな生活の場面において果たしている法の重要性や法の働き方を学ぶ。			
<b>到達目標</b>			
学生が、身近な生活の中においても法が働いていることやその重要性を学ぶことにより、単に学生であるということのみならず、家族の一人として、また市民として生活していることを具体例をもって認識できるようになる。 それにより、社会の一員としての責任感や自覚を高めることができる。さらに、学生自身の危機管理の能力の向上につなげることができる。(共通教育スタンダードの?問題解決のため汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力))、④市民としての責任感と倫理に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> 毎回授業に課すミニレポート(出席カード)10%、中間レポート(中間時に提出)30%、最終レポート(最終授業終了後提出)60%。レポート内容、提出時期等詳細は第1回授業時に説明する。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
第1回「学生生活と法」吉田明央先生担当 ※このとき冒頭10分程度で、和食から評価方法等の説明をします。 第2回「働き方のいろいろ・正規非正規とは？」木田直太郎先生担当 第3回「紛争解決と裁判の仕組み(仮題)」元木将道先生担当 第4回「消費者被害に遭わないために」木下登裕先生担当 第5回「情報と法 個人情報保護」鹿子嶋仁先生担当 第6回「債務整理の話」籠池信宏先生担当 第7回 未定 第8回(45分)「結婚とは?離婚とは?一法的な意味」和食俊朗先生担当  自学自習のためのアドバイス 各回の授業内容について、メモ等を作成し、レジュメや資料などをもとに復習し、各テーマにおける問題点はどこにあるのか、各講師は何を伝えたかったのかなどを反芻する。特に、後述のように、自己が興味を持ったテーマについてレポートを作成してもらうことになっているので、そのことを意識して、レポートしたいテーマについては、充実したものとするためには、発展的に独自に調査したり考察したりすることが考えられる。(各回2時間程度) なお、講師及び授業内容、順序には講師の都合で若干の変更が生ずることがある。  この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。			
<b>教科書・参考書等</b> 特になし			
<b>オフィスアワー</b> 四国グローバルリーガルセンター(北5号館1F)の開室時間(午前10時から午後4時)内にセンター職員に連絡(電話087-832-1776、assistants@ls.kagawa-u.ac.jp)があれば対応。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 授業出席の際には、各授業終了後、毎回出席カード(授業の感想などを簡単に記載する。)を提出する。3回欠席すると単位取得はできない。単位取得には、中間レポート及び最終レポートいずれも提出しなければならぬ。			
<b>教員の実務経験との関連</b> 弁護士：吉田明央、木田直太郎、木下登裕、籠池信宏、元木将道各先生 元裁判官：和食俊朗先生			

<b>ナンバリングコード</b> BITHA-dxxG-10-Lx1 <b>授業科目名</b> (時間割コード:000012)  主題A「人生とキャリア」 Life and Career  地域で活躍する職業人に学ぶ ～未来へ羽ばたけ編～ Role Models of Life in Rural Communities first period	<b>科目区分</b> 主題科目	<b>時間割</b> 2021年度 1Q月5	<b>対象年次</b> 1～
	<b>水準</b> 学士：入門科目 <b>分野</b> 主題A	<b>提供部局</b> ：大教センター <b>DPコード</b> ：dxx	<b>対象学生</b> 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	<b>授業形態</b> 講義	<b>単位数</b> 1	
<b>担当教員名</b> 原 瑞穂	<b>関連授業科目</b> 主題A「地域で活躍する職業人に学ぶ」～地域を元気に編～		
	<b>履修推奨科目</b> 主題C「地域理解」－実践型科目 地域貢献人財育成 実践講座Ⅰ 主題C「地域理解」－実践型科目 地域貢献人財育成 実践講座Ⅱ		
<b>学習時間</b> 授業90分×7講＋授業45分×1講＋自学自習（準備学習15時間+事後学習15時間）			
<b>授業の概要</b> 本授業では、地域の各分野で、職業人として地域社会を支え、生き様を通じて周囲に活力を与えている人達がいることを紹介する。ゲスト講師講話では、各学部の進路に関係の深い業界から、ロールモデルとして紹介したい職業人を招聘し、業界の動向や具体的な仕事、その方の志を語って頂く。また、学生がキャリアを考える際に、具体的に活用できる代表的なキャリア理論を講義する。			
<b>授業の目的</b> 学生が、自らのキャリア（個々人における生涯にわたる生き方）をデザインし、そのステージにおける「人財」になっていくことを支援するため、本授業は、学生が、①キャリアに関する基本知識を理解すること、②各界のロールモデルの生き方や働き方のリアリティに触れること、③視野・見識を広げ、キャリアの選択肢を広げること、を目的にしている。			
<b>到達目標</b>			
①社会において自己が果たすべき役割や、市民としての責任ある行動について理解を深め、そこから自己や社会の未来について考えることができる。（共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応） ②自己のキャリア形成に役立つ基礎知識や暗黙知を理解するとともに、具体的な行動へとつなげることができる。 ③地域社会を支える仕事や人について、具体的に説明できる。 ④現時点における自分の人生のイメージ（仮説）を言葉にして表すことができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業への取り組み姿勢及び各回提出のポートフォリオ(50%)および期末レポート(50%)をもとに判断する。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
この科目は基本的に対面授業を行います但し遠隔授業の場合もあります。また状況によっては授業形態を変更する可能性があります。			
<b>【授業計画】</b> 第1回 オリエンテーション（香川県労働政策課長の趣旨説明含む）・市民としての責任感と倫理観 第2回 講義 キャリアとキャリア形成 第3回 講話① 高松信用金庫 総務部 係長 杉浦 健介氏 第4回 講話② ツツク合同会社 代表社員 大井 啓一氏 第5回 講話③ 香川県小豆保健所 所長 横山 勝教氏 第6回 講話④ 株式会社サンテック 代表取締役社長 青木 大海氏 第7回 講話⑤ 四国化成工業株式会社 総務・人事部人事課 課長 北川 龍一郎氏 第8回 講義 まとめ（提出レポートの作成要領の説明を含む）			
<b>【授業および学習の方法】</b> 香川県の協力・支援のもと、様々な業界から職業人（計5名）を講師として招聘する。人事異動や業務の都合やアクシデント等により登壇者が予告なく変更になる場合もある。なお、登壇者の所属・役職名は令和3年3月時点のものである。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 第1～2回 大学生生活4or6年間及び卒業後の進路について深く考察し、おおよそのスケジュールを把握する 第3～7回 各ゲスト講師の所属する業界や職業上の特徴について調べるとともに、自己への適性を測る 第8回 ここまでの授業での学びについて、自己のキャリア形成にどのように活かすかを明確にするため、具体的な行動に結びつける計画を立案する			
<b>【注意事項】</b> ① ゲスト講師は、授業終了後も時間の許す範囲で残っていただくので、質問・お礼・挨拶を通して異世代とのコミュニケーション能力を高め、縁をつくる機会として活かしてほしい。 ② ポートフォリオの提出を持って出席確認とします。出席していない回のポートフォリオは提出することが			

出来ません。

③ 本講義は「地域で活躍する職業人に学ぶ ～地域を元気に編～」(第2Q)とゲスト講師が異なりますので、当然内容も違っております。各々の登壇者が所属する業界・組織・職種等を必ずよく確認してから履修してください。

**教科書・参考書等**

各講、レジュメを配布する。

**オフィスアワー** [原則] 水曜日10～12時 キャリア支援センター(大学会館2階)

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

- ・欠席した回はポートフォリオを提出できません。受けていない講話のレポートを提出することは不正行為とみなします。
- ・外部講師を招聘しますので、ケアレスミスの遅刻などないように特に留意してください。
- ・ゲスト講師は第1Q、第2Qともに5名です。各々の登壇者が所属する業界・組織・職種等を必ずよく確認して、より自分のキャリアに活かせる方を履修してください。
- ・本講義の履修者は、空席があれば主題A「人生とキャリア」地域で活躍する職業人に学ぶ～地域を元気に編～(第2Q)の聴講も1～5回まで許可しますので、原まで申し出てください。

**教員の実務経験との関連**

2級キャリア・コンサルティング技能士、産業カウンセラー[大学、企業、需給調整機関等の教員、キャリアコンサルタント、キャリアカウンセラー等]の実務経験をもとに講義を行います。

<b>ナンバリングコード</b> BITHA-dxxG-10-Lx1 <b>授業科目名</b> (時間割コード:000013)  主題A「人生とキャリア」 Life and Career  地域で活躍する職業人に学ぶ ～地域を元気に編～ イ Role Models of Life in Rural Communities second period	<b>科目区分</b> 主題科目	<b>時間割</b> 2021年度 2Q月5	<b>対象年次</b> 1～
	<b>水準</b> 学士：入門科目 <b>分野</b> 主題A	<b>提供部局</b> ：大教センター <b>DPコード</b> ：dxx	<b>対象学生</b> 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	<b>授業形態</b> 講義	<b>単位数</b> 1	
<b>担当教員名</b> 原 瑞穂	<b>関連授業科目</b> 主題A「地域で活躍する職業人に学ぶ」～未来へはばたけ編～		
	<b>履修推奨科目</b> 主題C「地域理解」－実践型科目 地域貢献人財育成 実践講座Ⅰ 主題C「地域理解」－実践型科目 地域貢献人財育成 実践講座Ⅱ		
<b>学習時間</b> 授業90分×7講＋授業45分×1講＋自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> 本授業では、地域の各分野で、職業人として地域社会を支え、生き様を通じて周囲に活力を与えている人達がいることを紹介する。ゲスト講師講話では、各学部の進路に関係の深い業界から、ロールモデルとして紹介したい職業人を招聘し、業界の動向や具体的な仕事、その方の志を語って頂く。また、学生がキャリアを考える際に、具体的に活用できる代表的なキャリア理論を講義する。			
<b>授業の目的</b> 学生が、自らのキャリア(個々人における生涯にわたる生き方)をデザインし、そのステージにおける「人財」になっていくことを支援するため、本授業は、学生が、①キャリアに関する基本知識を理解すること、②各界のロールモデルの生き方や働き方のリアリティに触れること、③視野・見識を広げ、キャリアの選択肢を広げること、を目的にしている。			
<b>到達目標</b>			
①社会において自己が果たすべき役割や、市民としての責任ある行動について理解を深め、そこから自己や社会の未来について考えることができる。(共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応) ②自己のキャリア形成に役立つ基礎知識や暗黙知を理解するとともに、具体的な行動へとつなげることができる。 ③地域社会を支える仕事や人について、具体的に説明できる。 ④現時点における自分の人生のイメージ(仮説)を言葉にして表すことができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業への取り組み姿勢及び各回提出のポートフォリオ(50%)および期末レポート(50%)をもとに判断する。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
この科目は基本的に対面授業を行います但し遠隔授業の場合もあります。また状況によっては授業形態を変更する可能性があります。			
<b>【授業計画】</b> 第1回 オリエンテーション(香川県労働政策課長の趣旨説明含む)・市民としての責任感と倫理観 第2回 講義 代表的なキャリア理論 第3回 講話① 株式会社ウエストフードプランニング 代表取締役 小西 啓介氏 第4回 講話② 香川県農業生産流通課 課長補佐 安田 英樹 氏 第5回 講話③ 香川県教育委員会事務局義務教育課 課長補佐 西原 明氏 第6回 講話④ メロディ・インターナショナル株式会社 CEO 尾形 優子氏 第7回 講話⑤ マックスバリュ西日本株式会社(マルナカ) 人事部担当 新谷 恵里氏 人事部担当 樋笠 由美氏 第8回 講義 まとめ(提出レポートの作成要領の説明を含む)			
<b>【授業および学習の方法】</b> 香川県の協力・支援のもと、様々な業界から職業人(計5名)を講師として招聘する。人事異動や業務の都合やアクシデント等により登壇者が予告なく変更になる場合もある。なお、登壇者の所属・役職名は令和2年2月時点のものである。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 第1～2回 大学生生活4or6年間及び卒業後の進路について深く考察し、おおよそのスケジュールを把握する 第3～7回 各ゲスト講師の所属する業界や職業上の特徴について調べるとともに、自己への適性を測る 第8回 ここまでの授業での学びについて、自己のキャリア形成にどのように活かすかを明確にするため、具体的な行動に結びつける計画を立案する			
<b>【注意事項】</b> ① ゲスト講師は、授業終了後も時間の許す範囲で残っていただくので、質問・お礼・挨拶を通して異世代とのコミュニケーション能力を高め、縁をつくる機会として活かしてほしい。 ② ポートフォリオの提出を持って出席確認とします。出席していない回のポートフォリオは提出することが			

出来ません。

③ 本講義は「地域で活躍する職業人に学ぶ ～未来へ羽ばたけ編～」(第1Q)とゲスト講師が異なりますので、当然内容も違っております。各々の登壇者が所属する業界・組織・職種等を必ずよく確認してから履修してください。

**教科書・参考書等**

各講、レジュメを配布する。

**オフィスアワー** [原則] 水曜日10～12時 キャリア支援センター(大学会館2階)

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

- ・欠席した回はポートフォリオを提出できません。受けていない講話のレポートを提出することは不正行為とみなします。
- ・外部講師を招聘しますので、ケアレスミスの遅刻などないように特に留意してください。
- ・ゲスト講師は第1Q、第2Qともに5名です。各々の登壇者が所属する業界・組織・職種等を必ずよく確認して、より自分のキャリアに活かせる方を履修してください。

**教員の実務経験との関連**

2級キャリア・コンサルティング技能士、産業カウンセラー[大学、企業、需給調整機関等の教員、キャリアコンサルタント、キャリアカウンセラー等]の実務経験をもとに講義を行います。

<b>ナンバリングコード</b> B1THA-dxxG-10-Lg1 <b>授業科目名</b> (時間割コード:000014)  主題A「人生とキャリア」 Life and Career  キャリアデザインと職業適性 イ Career Design and Vocational Aptitude	<b>科目区分</b> 主題科目	<b>時間割</b> 2021年度 1Q金2	<b>対象年次</b> 1～
	<b>水準</b> 学士:入門科目 <b>分野</b> 主題A	<b>提供部局</b> : 大教センター <b>DPコード</b> : dxx	<b>対象学生</b> 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	<b>授業形態</b> 講義 グループワーク	<b>単位数</b> 1	
<b>担当教員名</b> 原 瑞穂	<b>関連授業科目</b> 履修推奨科目 主題C「地域理解」－実践型科目 地域貢献人財育成 実践講座Ⅰ 主題C「地域理解」－実践型科目 地域貢献人財育成 実践講座Ⅱ		
<b>学習時間</b> 授業90分×7講+授業45分×1講+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> 本授業では、「自分は何がやりたいのか」また「自分には何が向いているのか」と考える学生を主な対象に、キャリアデザインおよび職業適性についての講義を行う。中心となる考え方は、主なキャリア理論に従い、キャリアの棚卸しによって職業適性への考察を深めるというものである。また、限られた学生生活期間において、何を捨選択すべきかの論理的な考え方についても演習問題を通してレクチャーする。			
<b>授業の目的</b> 自分自身のキャリアをデザインするため、キャリア形成のプロセスを理解するとともに、ステージごとに自己の目標を設定するための授業である。学生が、①キャリアに関する基礎知識を理解すること、②視野・見識を広げ、キャリア形成の選択枝を広げること、③キャリアにおいて長期的かつ戦略的な取り組みが可能となるスキルの獲得を目的にしている。			
<b>到達目標</b>			
①社会において自己が果たすべき役割や、市民としての責任ある行動について理解を深め、そこから自己や社会の未来について考えることができる。(共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応) ②キャリアにおける自己の興味・適性・能力を認識し、各々の項目を増やしていきける。 ③自らの気づきや感情を言語化したうえで、自己のキャリアデザインに反映することができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業への取り組み姿勢や提出レポートを中心に平常の評価を行う。期末レポートの評価をそれに加味して総合評価を行う。(各回ポートフォリオ20%、授業への取り組み姿勢20%、最終レポート30%、発表30%)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
この科目は基本的に対面授業を行います但し遠隔授業の場合もあります。また状況によっては授業形態を変更する可能性があります。			
<b>【授業計画】</b> 第1回 オリエンテーション.市民としての責任感と倫理観 第2回 キャリア形成に必要な視点 第3回 学生と企業の意識の違い 第4回 自己理解(職業興味・価値観) 第5回 自己理解(体験を振り返る) 第6回 自己理解(キャリアアンカー) 第7回 今後の学生生活の目標(発表) 第8回 講義 まとめ			
<b>【授業および学習の方法】</b> 本授業は、講義とグループワークからなる。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 理論を学ぶだけでは自己のキャリアデザインを構築することは難しい。授業で学んだ内容を自分のこととして考えたり、自分自身に疑問を投げかけ何を思い感じるかが肝要である。授業の効果をキャリア形成に最大限に活かすことを期待する。具体的には以下の内容について自学自習に取り組んでほしい。			
①世の中にどのような職業があるのかを書籍やネット等で調べ、各々の職業の社会的役割や自分との適性を検討する。 ②過去の経験から「自分」という人間の能力や特性を把握し、幸せな職業生活へと続く未来像を構想する。 ③各種のインターンシップ(低学年向け)や就職イベント等に参加し、その体験を通して自己の職業感を醸成する。			
<b>【授業修了後の課題】</b> 当授業の扱う内容は講義期間中だけのものではない。就職活動や仕事へと活かしていくために、以下の内容についても自学自習を継続することをお勧めする。			
①新卒採用における労働条件(職務内容・給与・休日・勤務時間等)の世間相場を把握するとともに、自			

分にとって優先順位の高い条件を獲得するために必要なスキルや職業・職種等を明確にする。  
② 常識レベルの労働法について理解するとともに、法律や各企業の定める就業規則から逸脱しない行動規範を身につける。

**教科書・参考書等**

適宜レジュメや参考資料等を配付

**オフィスアワー** [原則] 水曜日 10～12時 キャリア支援センター (大学会館2階)

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

- ・グループワークでは途中からの出席を認めない場合があるので、ケアレスミスでの遅刻がないように留意すること。
- ・本講義は主題A キャリアデザインと職業適性 ロ (第3Q) と同じ内容である。

**教員の実務経験との関連**

2級キャリア・コンサルティング技能士、産業カウンセラー [大学、企業、需給調整機関等の教員、キャリアコンサルタント、キャリアカウンセラー等] の実務経験をもとに講義を行います。

<p>ナンバリングコード B1THA-dxxG-10-Lg1  <b>授業科目名</b> (時間割コード:000015)</p> <p>主題A「人生とキャリア」  Life and Career</p> <p>キャリアデザインと職業適性 ロ  Career Design and Vocational  Aptitude</p>	<b>科目区分</b> 主題科目	<b>時間割 2021年度</b> 3Q金2	<b>対象年次</b> 1～
	<b>水準</b> 学士:入門科目 <b>分野</b> 主題A	<b>提供部局</b> : 大教センター <b>DPコード</b> : dxx	<b>対象学生</b> 全学生 <b>特定プログラムとの対応</b> 対応なし
<b>担当教員名</b> 原 瑞徳	<b>関連授業科目</b> <b>履修推奨科目</b> 主題C「地域理解」－実践型科目 地域貢献人財育成 実践講座Ⅰ 主題C「地域理解」－実践型科目 地域貢献人財育成 実践講座Ⅱ		
<b>学習時間</b> 授業90分×7講+授業45分×1講+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> 本授業では、「自分は何がやりたいのか」また「自分には何が向いているのか」と考える学生を主な対象に、キャリアデザインおよび職業適性についての講義を行う。中心となる考え方は、主なキャリア理論に従い、キャリアの棚卸しによって職業適性への考察を深めるというものである。また、限られた学生生活期間において、何を取捨選択するべきかの論理的な考え方についても演習問題を通してレクチャーする。			
<b>授業の目的</b> 自分自身のキャリアをデザインするため、キャリア形成のプロセスを理解するとともに、ステージごとに自己の目標を設定するための授業である。学生が、①キャリアに関する基礎知識を理解すること、②視野・見識を広げ、キャリア形成の選択肢を広げること、③キャリアにおいて長期的かつ戦略的な取り組みが可能となるスキルの獲得を目的にしている。			
<b>到達目標</b>			
①社会において自己が果たすべき役割や、市民としての責任ある行動について理解を深め、そこから自己や社会の未来について考えることができる。(共通教育スタンダード「市民としての責任感と倫理観」に対応) ②キャリアにおける自己の興味・適性・能力を認識し、各々の項目を増やしていきける。 ③自らの気づきや感情を言語化したうえで、自己のキャリアデザインに反映することができる。			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業への取り組み姿勢や提出レポートを中心に平常の評価を行う。期末レポートの評価をそれに加味して総合評価を行う。(各回ポートフォリオ20%、授業への取り組み姿勢20%、最終レポート30%、発表30%)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
この科目は基本的に対面授業を行います但し遠隔授業の場合もあります。また状況によっては授業形態を変更する可能性があります。			
<b>【授業計画】</b> 第1回 オリエンテーション.市民としての責任感と倫理観 第2回 キャリア形成に必要な視点 第3回 学生と企業の意識の違い 第4回 自己理解(職業興味・価値観) 第5回 自己理解(体験を振り返る) 第6回 自己理解(キャリアアンカー) 第7回 今後の学生生活の目標(発表) 第8回 講義 まとめ			
<b>【授業および学習の方法】</b> 本授業は、講義とグループワークからなる。			
<b>【自学自習のためのアドバイス】</b> 理論を学ぶだけでは自己のキャリアデザインを構築することは難しい。授業で学んだ内容を自分のこととして考えたり、自分自身に疑問を投げかけ何を思い感じるかが肝要である。授業の効果をキャリア形成に最大限に活かすことを期待する。具体的には以下の内容について自学自習に取り組んでほしい。			
①世の中にどのような職業があるのかを書籍やネット等で調べ、各々の職業の社会的役割や自分との適性を検討する。 ②過去の経験から「自分」という人間の能力や特性を把握し、幸せな職業生活へと続く未来像を構想する。 ③各種のインターンシップ(低学年向け)や就職イベント等に参加し、その体験を通して自己の職業感を醸成する。			
<b>【授業修了後の課題】</b> 当授業の扱う内容は講義期間中だけのものではない。就職活動や仕事へと活かしていくために、以下の内容についても自学自習を継続することをお勧めする。			

- ① 新卒採用における労働条件（職務内容・給与・休日・勤務時間 等）の世間相場を把握するとともに、自分にとって優先順位の高い条件を獲得するために必要なスキルや職業・職種等を明確にする。
- ② 常識レベルの労働法について理解するとともに、法律や各企業の定める就業規則から逸脱しない行動規範を身につける。

**教科書・参考書等**

適宜レジュメや参考資料等を配付

**オフィスアワー** [原則] 水曜日 10～12時 キャリア支援センター（大学会館2階）

**履修上の注意・担当教員からのメッセージ**

- ・グループワークでは途中からの出席を認めない場合があるので、ケアレスミスでの遅刻がないように留意すること。
- ・本講義は主題A キャリアデザインと職業適性 イ（第1Q）と同じ内容である。

**教員の実務経験との関連**

2級キャリア・コンサルティング技能士、産業カウンセラー [大学、企業、需給調整機関等の教員、キャリアコンサルタント、キャリアカウンセラー等] の実務経験をもとに講義を行います。

ナンバリングコード BITHA-dbxG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000016) 主題A「人生とキャリア」 Life and Career 学ぶ・働く・生きる learning, working and living	科目区分 主題科目 水準 学士:入門科目 分野 主題A 授業形態 講義 グループワーク	時間割 2021年度 1Q木1 提供部局:大教センター DPコード:dbx 単位数 1	対象年次 1~ 対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
担当教員名 小方 直幸	関連授業科目 履修推奨科目		
学習時間 講義90分×7回+ (まとめ45分+試験45分) ×1回+自学自習(当該課題の復習およびGWに向けた予習で毎回30分~1時間程度)			
<b>授業の概要</b> あなたはなぜ大学に進学しようと考え、そして今の大学・学部を選びましたか。そして、これからの172,800分をどう使うつもりですか。高校までとは異なる大学1年次の学び方は、4年間の学びの土台となるもので、とても大切です。これまでのあなたの学びを振り返り、卒業後の仕事や働き方に思いをめぐらせ、そして人生100年時代をどのように生きるかを、仲間と対話しながら考えます。			
<b>授業の目的</b> この授業の目標は、学ぶこと・働くこと・生きること、とはどのようなことなのか、先人の考えに触れつつ、自身の学び、卒業後の仕事、そして生き方についてまずは考え、それを授業の仲間と交流することでブラッシュアップし、他者の生き方も受け容れつつ、自身の将来を見据え、倫理観に裏付けられた責任ある市民に向けた準備をすることです。			
<b>到達目標</b>			
1. 学ぶこと・働くこと・生きることとは何かを考えるための下地を作れること 2. 自らの経験や考えを他者と共有することで、自身と他者の生き方をより理解できるようになること (共通教育スタンダードの「市民としての責任感と倫理観」) 3. 在学中の過ごし方を、学び・働く・生きる、を踏まえて設計できるようになること			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業時の取組60% (到達目標1と2に対応)、試験40% (到達目標3に対応)			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【各回の内容】</b> 1: 学ぶとは~大学での学びの本質を考える 2: 自身にとっての大学での学び 3: 働くとは~仕事を意味づけ将来の職業を展望する 4: 自身にとっての仕事の意味・意義 5: 生きるとは~人として市民として 6: 自身の生き方の設計 7: 大学生活における学ぶ・働く・生きる 8: まとめと試験  <b>【授業の方法】</b> 基本的に対面授業で行います。なお、コロナ等の状況に応じてオンラインを併用したり、全面オンラインに切り替える可能性もあり、その際には適宜連絡をします。また課題の提示や提出等はMoodleを通じて行う予定ですので、PCを使った授業外活動も前提となります。こちらも授業中に指示や説明を行います。			
<b>【自学自習について】</b> 学ぶ、働く、生きるをそれぞれ2回セットで行う予定です。各テーマに関して授業で学んだことを自身の経験とも関連させて復習し、それを踏まえて他者とのグループワークに向けた準備を行ってください。これまでの自身の生き方や考え方をテーマごとに予め振り返った上で授業にのぞみ、授業で得た知識・考え方を、さらに受講者間での交流によりブラッシュアップし、当初の考え方と比較し、今後の学生生活については卒業後の生活の指針としていってもらえると幸いです。自身だけの学びには良くも悪くも限界があります。他者と積極的に関わり、考え方の視野をいったん広げた上で、改めて選択をしていってください。			
<b>教科書・参考書等</b> 資料は授業時に配布します			
<b>オフィスアワー</b> 木曜2限 8号館4階			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> この授業はグループワークを重視しているため、受講生は100名程度とします			

ナンバリングコード B1THA-dacG-10-Lx1 授業科目名 (時間割コード:000017) 主題A「人生とキャリア」 Life and Career 男女共同参画の視点からライフデザインを考える Life design from the perspective of gender equality	科目区分 主題科目	時間割 2021年度 1Q木5	対象年次 1~
	水準 学士:入門科目 分野 主題A	提供部局:大教センター DPコード:dac	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義	単位数 1	
担当教員名 柴田 潤子	関連授業科目 「生活と法」 履修推奨科目 「生活と法」		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習(準備学習15時間+事後学習15時間)			
<b>授業の概要</b> 価値観の多様化が進む社会の中で、自分らしい生活・ライフデザイン・キャリアを設計・形成することは、益々重要となっている。本授業では、「男女共同参画」を基軸とした価値観をキャリア・ライフデザインにどのように位置づけていくかを考えるための講義を提供する。 多様な分野で活躍されている主に実務家によるオムニバス形式によって、授業を構成する。まず、男女共同参画についての総論から始め、キャリアデザインを構築するにあたって、子育ての問題・労働法制の問題を取り上げ、ジェンダー問題を法的な視点から検討する。さらに、具体的なキャリアとの関係で、裁判所と最近特に注目されている政治におけるジェンダー問題を理解できる様にする。最後に、理系の大学院を修了し企業におけるキャリアの進め方について学ぶ。			
<b>授業の目的</b> 生き方を取り巻く環境の変化に伴い、人間の生き方は大きく変わると予測され、前の世代の人生をコピーするだけでは幸せに生き抜かれられない時代が到来している。本授業では、長い人生において、様々な価値感が存在する社会で「男女共同参画社会」という価値観を、ジェンダー問題、キャリアという観点から広く共有し、人間の尊重を基礎に据えた、自分らしいキャリア・ライフデザインを考えることができるようにする。			
<b>到達目標</b>			
1. 現代社会における「男女共同参画」の意義を述べることができる。 2. 「男女共同参画」社会の実現に向けた自らのキャリア・ライフプランを述べることができる。 (共通教育スタンダード ①「課題解決のための汎用的スキル(幅広いコミュニケーション能力)」、③「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」④「市民としての責任感と倫理観」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業中に課すミニレポート(20%、到達目標1)、レポート(80%、到達目標1,2)で評価する。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
第1回(4/15)「男女共同参画推進社会」について総論-「どんな個人も尊重して生きられる社会を目指して」 内閣人事局(女性活躍促進・ダイバーシティ担当)永田真一先生/男女共同参画推進室長・四国グローバルリーガルセンター長 柴田潤子教授 オンラインでの実施 第2回(4/22)「子育て家庭の現状と課題、必要な支援とは」 NPO法人わははネット理事長 中橋恵美子先生担当 第3回(4/29)「誰もが生き生きと働くために ~男女共同参画の視点から働き方考える」 香川労働局雇用環境・均等室長 佐藤真理子先生 第4回(5/6)「ジェンダーの視点で考える『社会』と『法』」 香川県弁護士 佐藤倫子先生 第5回(5/13)「議会:意思決定の場に多様性を」 高松市議会議員 太田あゆみ先生 第6回(5/20)「裁判所における女性の活躍」 高松地方裁判所 村瀬かおる先生、藤井容子先生 第7回(5/27)「技術者を取り巻くさまざまな環境と自分自身で描く未来予想図~ライフプラン設計~」 復建調査設計四国支社 岩井綾先生 第8回(6/3)「企業におけるキャリア形成について」 日本IBM 大津陽子先生 オンラインでの実施			
この科目は基本的に対面授業を行います。一部の授業回では遠隔授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。			
第1週のガイダンスで授業の概要を説明し、評価方法等についての情報を伝えます。 なお、講師及び授業内容、順序には講師の都合で若干変更が生ずる事があります。 各回の講義に参加し関心を持った分野についてのリサーチを加え、最終レポートを作成します。 準備学習として、男女共同参画に関する問題について自分なりに情報を集め、考察を行い、事後学習としては、講義の内容を基に他の文献等を参考にして、自らの考えを整理する様にしてください。			
<b>教科書・参考書等</b> 特になし。			
<b>オフィスアワー</b> 男女共同参画推進室(北5号館1F)の開室時間(9時半から16時半)。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> 授業について、授業メモの提出を求められることがある。			
<b>教員の実務経験との関連</b> 子育て支援や男女共同参画に関わる実務経験、実務家(弁護士・労働局)経験にもとづき、講義を行います。			

ナンバリングコード BITHA-dabG-10-Lg1 授業科目名 (時間割コード:000018)  主題A「人生とキャリア」 Life and Career  社会人になるための基礎を学ぶ To learn the basics for a member of society	科目区分 主題科目	時間割 2021年度 3Q火2	対象年次
	水準 学士:入門科目 分野 主題A	提供部局:大教センター DPコード:dab	対象学生 全学生 特定プログラムとの対応 対応なし
	授業形態 講義 グループワーク	単位数 1	
担当教員名 竹内 正興	関連授業科目 教育社会学 履修推奨科目		
学習時間 授業90分×7回+授業45分×1回+自学自習(準備学習12時間+事後学習18時間)			
<b>授業の概要</b> 各回の授業において、キャリア、コミュニケーション、マーケティング、教育学の各基礎的理論の講義から問題設定を行い、グループでの議論、発表、担当教員からのフィードバックを中心に展開する。			
<b>授業の目的</b> これまでの自己を振り返り、教育学等の学問分野の基礎的な理論に触れながら、社会人として適応するためのマインド面を中心としたレディネスを形成する。			
<b>到達目標</b>			
1. 学生が、社会人として必要な能力・要件について理解を深めることができる。(共通教育スタンダードの「d:市民としての責任感と倫理観」に対応) 2. 大学に対する理解を深めることで、今後の大学生活全般に対する主体性を高めることができる。(共通教育スタンダードの「a:課題解決のための汎用的スキル」に対応) 3. 自己理解を学問と関連づけながら深めることで、学問に対する学びへの意欲を高めることができる。(共通教育スタンダードの「b:広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)			
<b>成績評価の方法と基準</b> 授業への主体的(積極的)参加(20%)、講義ごとのコミュニケーション・レポート(30%)、レポート課題(期末)(50%)とする。			
<b>授業計画・授業及び学習の方法・準備学習及び事後学習のためのアドバイス</b>			
<b>【授業の方法】</b> この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては、一部または全ての授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。			
<b>【授業計画】</b> 第1週 オリエンテーション:社会で求められる力について考える 第2週 社会で果たすべき役割(市民としての責任感と倫理観を中心に)を考える 第3週 キャリア形成について考える 第4週 社会の中の自己について考える 第5週 コミュニケーション能力について考える 第6週 売上と費用の仕組みについて考える。最終プレゼンテーションの準備 第7週 最終プレゼンテーション。 第8週 まとめ(45分授業) 講義ごとに課すコミュニケーション・レポートが授業の振り返り(復習)となります。			
<b>【自学自習に関するアドバイス】</b> ・第1週～第7週 授業の振り返り(復習)の中から自分自身の今後の行動に落とし込める要素を見つけ、それを実践できる具体的計画を立てコミュニケーション・レポートとして提出する。 ・第7週 最終プレゼンテーションの準備(予習)(グループでの作業+個人での準備)。			
<b>教科書・参考書等</b> 講義毎に指示します。			
<b>オフィスアワー</b> 1回目の授業でお伝えします。			
<b>履修上の注意・担当教員からのメッセージ</b> ・単位の取得のみが目的ではなく、授業に積極的に参加しようとする「意欲のある方」の受講を歓迎します。また、「教育学」分野の領域を議論のための題材として扱うことが多いので、教育について関心のある方の受講を歓迎します。 ・グループワーク中心の授業形態のため、受講者数は100名程度としますが、第7週最終プレゼンテーションについては、受講者数が60名以上となった場合「グループワーク+レポート」に変更する可能性があります。 ・15分以上の遅刻は欠席とみなします。			
<b>教員の実務経験との関連</b> 企業の勤務経験が約20年あります。学問と企業経験で培った実務を融合しながら、講義・演習を行います。			